

第2回稲沢市介護保険事業計画等策定委員会 会議録

日時：令和5年9月28日（木）午後2時

場所：稲沢市役所 政策審議室

- 1 あいさつ
- 2 議 題
 - ・介護保険事業計画の骨子案について
- 3 その他
 - ・次回の開催予定について

議 題

- ・介護保険事業計画について

事務局：（資料1「計画骨子案」骨子の骨格、第2章の説明）

（質疑応答）質問なし

事務局：（資料1「計画骨子案」第3章の説明）

（質疑応答）質問なし

事務局：（資料1「計画骨子案」第4章の説明）

（質疑応答）

委員：全体に、具体的にどういことをやるのかわからない。第4章の1-1「高齢者の生きがいづくり」については、頑張っている高齢者が多いので表彰の充実を考えてはどうか。

「高齢者ふれあいサロン活動」は自分の近くではいま休止中だが、ボランティアの有償化をしていかないとやっていけないのではないかと。また、話し合い・見守りは民生委員だけではやれない。パート的な補佐役を考えてもらえないか。自治会・老人会の補助金も、事業計画は出しているのに少ない。もう少し補助金を出すべきだと思う。

委員：高齢者サービスは、利用する側からみれば情報がないと心配になる。安心して生活していくためにも周知が必要だと思う。アンケート結果（資料P.36）では市で実施している事業について「知らない」と答えた人がいずれの事業も4割以上になっている。

委員：介護について知らない高齢者が多い。千代田地区では高齢介護課に講師をお願いして講演をしてもらうなどの取り組みをしているが、老人クラブは会員数が減っていくばかりで、いい話をしてもらってもなかなか効果が上がらない。会員数の減少を抑える取り組みにかかってしまって肝心の介護からやや離れてしまっている。会員数の減少すると補助金が減り会費の納入が減り、行事ができない、講師が呼べない等の問題が出る。

委員：独居老人が増えているが、民生委員になる方自体も高齢化している。1人の委員で40人も、1か月の間にみられない。話をじっくり聞いていると1人に1時間以上かかってしまう。

委員：認知症カフェもボランティア団体で成り立っている。認知症に対する正しい理解を促す講演等を無料をお願いしている。ビンゴ大会の景品等も自前で揃えている状況だが、自分が次の方につないでいく時に無償のボランティアでやっていただけるかどうかは疑問に思う。

委員：ケアマネジャーの不足が問題になっている。プランが作れず、サービスを受けられないケースも発生している。安心して介護サービスを受けられなくなる。

委員：第4章の1-2「移動・交通手段の整備」について。コミュニティバスは利用者が少なくなっている。費用対効果を見直し、社会のためという観点からも使い勝手の良い巡回バスにしてほしい。稲沢おでかけタクシーも予約がとれない。免許を返納せよという割には配慮が足りない。今は返納で巡回バス券がもらえるが、タクシー割引等の優遇措置

がほしい。

委員：認知症カフェの参加者からも「交通手段がない」という声が結構ある。荷物も持てず買い物ができないという人や、野菜販売所がなくなって困っている人もいた。免許を返納すると来られなくなるので寂しくなるなあ、という声もある。

委員：第4章2-2「認知症支援策の充実」にある「出前講座」は、ぜひお願いしたい。また、「認知症」と呼ぶのはやめて「MC I」と呼ぶのはどうか。認知症の早期発見については、具体的にはどういうことをするのか。名古屋市では健康診断の際に認知症の簡易チェックを15項目くらいで行っている。稲沢市もやってほしい。稲沢市は精検費も高いので、名古屋市のように補助金をもっと出してほしい。

委員：2-3「家族介護者への支援」については、税制による優遇措置をお願いしたい。2-4「サービス事業者への指導の充実」については、有償ボランティアの活用によって、生活援助をするヘルパーの増員をお願いしたい。3-1「支え合う地域づくり」でも有償ボランティアを活用・育成し、見守りを充実してほしい。企業には出張売店をお願いして生活支援に尽力してほしい。全体的に、「地域で」というのであれば、市ももう少し補助金を出し、人材を育成する、という方向で考えていただきたい。

その他

・次回の開催予定について

事務局：次回の策定委員会は令和5年11月13日（月）午後2時からの開催を予定している。

以上